

## 原子力行政連絡調整会議専門委員の意見

平成16年9月22日の福島第二原子力発電所立入調査に関して、同行または助言いただいた福島県原子力行政連絡調整会議専門委員の意見は以下のとおり。

---

### < 丁寧かつ分かりやすい説明に引き続き努力を >

これまでの立入調査と比べて資料のまとめ方や説明が分かりやすくなったとの印象を持った。これはトラブルなどで苦労された成果とは思いますが、今後とも引き続き、丁寧かつ分かりやすい説明に努めていただきたい。

### < 補修箇所は監視を十分に >

炉心シュラウドのひび割れについては、切除による補修を行っており、シュラウドに大きな力がかかることはないということや、補修部分にはひび割れの進展を防止する応力緩和措置を施工しているとの説明があり、対応はとられたものとする。しかし、ひび割れの進展予測にはまだ不明なところもあるので、今後のひびの監視は十分に行っていただきたい。

### < 精度確保やデータ蓄積が不十分なところは慎重に判断を >

再循環系配管のひび割れについては、ひび割れの検査手法の精度を十分考慮し、また、データの蓄積がまだ不十分なところがあることを前提として、今後適切に判断して対応していただきたい。

### < 配管減肉管理は抜かりなく点検を >

配管減肉の管理状況においては、現場ではきちんと管理されているようだが、BWRの主蒸気ラインはPWRと違い一次冷却系であり放射能を有することから、その重要度を十分認識して、抜かりなく点検を進めていただきたい。

---

### < 技術者一人ひとりが細かいことにも関心を持ち、分かりやすく説明を >

巨大技術に高度技術者集団として取り組んでいる自負を持って、仕事をしてほしい。このことが日々の仕事を安全性確保へつなげていく。原子力のような巨大技術が社会的に受容されていくためには、技術者一人ひとりがその技術な

り事象について、人々にわかりやすく説明できるようにしていく必要がある。そのためには、例えばごみのひとつにもなぜ落ちるのかなど、細かいことにもぜひ関心を持っていただきたい。

< 的確な技術の継承を >

日本では原子力発電所の新規立地は困難な状況にあり、一方で技術は新設がないと衰えると言われるが、現場の技術者が問題を見つけひとつひとつ的確に解決して、リプレースや保守管理ができるよう、技術の継承に努力していただきたい。

PWR で起こった配管減肉事故については、東京電力のBWRではすでにA, B, C, Dと4段階にランク付けして点検管理をしており安全対策をとっているが、代表箇所選定の考え方などわかりやすい説明をしていただきたい。

また、格納容器漏えい率検査における、測定日による漏えい率の差異について、初めからわかりやすい説明をするよう心掛けていただきたい。

---

< 点検箇所の選定は総合的な判断を >

配管内の二相流や单相流における偏流の発生部位は現場の様々な条件が複合的に関わり多様であり、点検を行う部位を選定する場合も、種々の専門分野の技術者の検討を踏まえ、総合的に判断する必要があるのではないかと。

< 組織的な安全の多重防護を >

原子力発電所では安全設備についての多重防護が図られているように、チェック漏れのようなヒューマンエラーなどを防ぐ組織の多重防護も必要ではないかと。更に、国が具体的に事業者の安全管理を組織的に確認するような国と事業者のダブルチェックが必要ではないかと。